

琉球大学学術リポジトリ

白いものの手入れ方法 – アクセサリーを美しく保つために –

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡口, 文子, Toguchi. Fumiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20491

白いものの手入れ法

(アクセサリを美しく保つために)

夏も終りに近く、白いものともそろそろお別れしたくなるこの頃となりました。皆様のお手元にありますいろいろな白いものを次の夏まで清潔に美しくしておくために2、3の手入れ法を申し上げたいと思います。附属品の中でも手近に多く使われておりますものを。

1. パラソル

白のパラソルも白く清潔にしておくためにはまめに手入れすることが大切です。

△ 洗 い 方

傷んでいる所がありましたらつくろってから洗いかかります。ホースかジョロで一面に水をかけ、地の目にそって柔かいブラシで洗って行きます。木綿や麻の時はアルカリ性の粉石鹼でよいでしょう。絹物には必ず中性石鹼を使います。パラソルは陽に焼けて骨の所が傷み易いので古いもの時には洗いながら布地がさけることがありますから注意して洗うことですし、又は避けた方がよいでしょう。プリント物を洗う時は色が落ちてきたなくなりますから洗剤の中に酢かサク酸を加えて洗うと色が出るのを防ぐ(或程度)ことが出来ます。

2. 靴

△ 白皮の場合

外出から帰ったら直ぐに埃をブラシで払います。白皮用の消ゴムで汚れを落し布にクリームをうすく伸ばして塗り乾いたらネルの様な柔かい布で艶を出しておきます

△ スエード

ブラシで埃を払い、消ゴムで汚れを落としてからチョークを塗り(クリームは塗りません)柔かい布か綿で万遍なくこすります。

△ 布(キャンパス)

ブラシに水をつけて泥の汚れを洗い落とし、湿っているうちに布靴用の白クリームを刷毛で塗っておき、翌日まで陰干にして乾かして軽くブラシをかけ、浮いている白い粉を払いおとします。

△ ビニール・サラン

ちょっとした汚れならぬれた布でこすればとれます。これでおちない汚れはクリーナー(市販のハンド・クリーナー)でおとします。

△ ナイロン・メッシュ

ベンジンで汚れを落としますが、ベンジンで拭きますと色がつきますので白くするには、上から白皮靴用のクリームを刷毛で塗り、布で拭いておきます。外出からお帰りになりましたらすぐに拭く様にします。常に白くしておくためには毎日の手入れが必要です。

3. バック

△ ビニール・サラン

ブラシで埃を払い部分的な汚れはベンジンで落とします。全体に薄く汚れた時は石鹼水を薄め、ブラシや布を使って洗います。お湯を使いますとビニールは柔らかくなりますので、その時にバックの型くずれもよく直し、石鹼分もよくおとしてから陰干しておきます。又ビニールは汗の酸で化学的作用をおこして桃色になりますので、

手まめに汗を拭きとる様にします。もし赤くなりましたら専門家にビニール塗装をしてもらうとよいでしょう。

△ 皮革

埃はブラシでおとし、ちょっとした汚れは消しゴムで消せますが、アルコール分は使わない様にします。うすい石鹼水でも洗えますが古くなったものは、はげます。又白の染色で染めなおしてもよいでしょう。

△ バスケット

ペンキを塗ったものが汚れた時はペンキや泥えの具を上から塗り直します。型くずれのしたものは、水に漬けて型を直してから乾かし、その後でペンキを塗り直します。

4. 手袋

△ ナイロン

洗濯は普通のナイロン生地と同様に中性石鹼の上質石鹼液で軽くつかみ洗いをします。石鹼液はかならず40度から50度の温湯を使うこと。指先はどうしても汚れがとりにくいので、板の上で叩き洗いかへら洗いをします。後十分に濯いで石鹼分を取り、押ししぼりをして（バスタオル等で水気をとる）形を整えてから陰干にしますと、特に仕上げのアイロンはいりません。日光や火に当てますと変色する原因を作ります。漂白する必要がある時は、漂白剤に注意致しましょう。オキシドールやサラン粉を使いますと布地を傷めるから、市販されているアラミン、ホホワイトを使う様に致します。

△ 綿

綿でもネット（レース）やメッシュ織、カシミア織がありますが、洗濯の方法は同じです。下洗いの後、石鹼をお湯に溶かしよく泡立て、手もみ洗いをします。指先の汚れは丹念にたたき洗いをし、よくすすいでしぼり天日でからっと干します。仕上げは親指の表裏に軽くアイロンをかけ掌の方へ折り曲げて甲の方へと仕上げて行きます。アイロンの温度は200度で当てます。漂白剤にサラン粉を使った後は十分すすぎに注意します。

（渡 口 文 子）